

## 令和7年度「地区別プラン策定」に関する意見交換会 飯田地区 協議記録

日 時	2025 年 11 月 26 日（水） 18:00～19:30
場 所	飯田小学校

参加者： 34 名

### 【開会のあいさつ】

泉谷区長会長：

発災からもうすぐ2年となる。解体が進み景色が変わってきている。建物も建ち始めており、少しは良い方向に進んでいると思うが、まだまだ始まったばかりである。

我々の中で議論しているが、どうすればよいのか、どのような話し合いをすればよいのか、分からなくなる。今後は行政の方と一緒に飯田町を良い方向に持って行くように進めて行きたい。今日は、市の事業について聞き、皆さんと一緒に意見交換を進めて行きたいと思う。

市長：

区長会長のお話にもあったが、まもなく発災から2年が経とうとしている。中々進まないこともあり、心苦しい思いもしているところではあるが、公費解体については市内全域で98%程進んでおり、飯田地区では残り20棟である。ただし、公費解体によって更地が広がり、飯田の町も本当に大きく変わっている。復興まちづくり協議会では、これから飯田地区をどうしていくか、「新たなまちのかたち」について議論いただいている。皆様方から提案をいただいた復興のプランについても、引き続き対応をしていく。

本日は、特にインフラの復旧の見通しについて説明を行う。国道、春日通り、そして飯田臨港道路等々については石川県で進めている事業もあるので、石川県珠洲土木事務所からも説明をいただく。

飯田の港については、これからどう活用していくかということが、飯田の復興に向け大きな役割を果たすこととなる。また飯田分団の待機所については、整備する場所などが決まっていないため、ご意見いただきたい。復興公営住宅については、4回目の意向調査を行っており、約85%の回収率である。飯田地区において、公営住宅の意向がどれだけあるかということも含め、皆さんと共に考えていきたい。

このような状況の中、飯田の祭りは開催されており、大阪・関西万博でも披露いただき復興に向けて頑張る姿を発信いただいた。皆様の復興に向けた思いにお応えするため、飯田町の復旧、そして魅力ある、安全で快適な復興に、共に取り組んでいく。今日は忌憚ないご意見をお出しいただきたい。

### 【資料説明】

資料1 復旧・復興箇所図

### 【参加者からの意見】

参加者：

凡例の随時対応予定とはどういう意味か。

珠洲市：

グレーで表示されている路線は、甚大な被害はなかったが、一部、側溝が壊れていたり舗装が割れていたりしている箇所であり、随時ご連絡をいただいた時に対応するという意味である。

参加者：

飯田吾妻町の復興公営住宅予定地について、事業者公募中とあるが、いつ着工するのか。

珠洲市：

吾妻団地は独立行政法人都市再生機構（UR）と事業を進めており、現在、設計会社を決めているところである。今の目標は、設計事業者を12月中に決定し、完成を令和10年3月の予定としている。令和10年4月から入居できるようにしたい。

参加者：

それまでは仮設住宅に入居したままで良いのか。

市長：

その認識で問題ない。復興公営住宅の希望が3回目の意向調査の時点で約700世帯である。現在市内全域でどのような形で何戸整備するかを検討しており、復興公営住宅の整備が完了した後に応急仮設住宅から移っていただくようにする。ただし、仮設住宅の延長に際し、毎年、延長の理由を書いていただくことが必要となる。ご理解いただきたい。

参加者：

飯田地区に住んでいる住民は、飯田地区の復興公営住宅に優先的に入れるのか。

市長：

詳細なアンケートを行っている。地区の必要戸数を把握し、不足がないように整備する予定である。他の地区から飯田地区に移り住む場合もあると思うが、すべての希望者が入れるように整備を行う。

珠洲市：

他の地区から飯田地区の公営住宅に入りたいという声が多数ある。現時点で、吾妻町は38戸ほどの意向、鍛冶町は30戸ほどの意向、健康増進センターは44戸ほどの意向をいただいている。

市長：

意向調査に関し75%回収の速報値でこのくらいある。吾妻町の21戸はこれ以上増やせないため、全体でバランスを取る必要がある。鍛冶町も測量に入っているが、一部、自力再建の方もいらっしゃるので調整しながら進める。今町の候補地には現在、応急仮設住宅があり、例えば少しずつ自力再建や、他の復興公営住宅が整備できてそちらに移るなどの後、解体し建て直すなど考えられるが、調整は難しい。そうなると、2年で整備という目標から遅れる可能性も出てくる。しかし、他に場所を増やすというのは難しい。

珠洲市：

これ以上、団地の箇所を増やすのは難しい。鍛冶町や栄町については、3、4階建てにしてエレベーターを設置し、多くの方が入居できるようにしたいと考えている。なるべく皆様の意向調査の希望に沿った住宅の供給をしていきたい。今町は応急仮設住宅から移られた際に、新たに建てる検討は進めていく。

参加者：

現在整備中の、「みんなの家」はどんな活動をする場か。

市長：

日本財団の支援で整備が進んでいる。住居ではなく、まちの賑わいづくりに貢献できる様々な活動が行われることになる。他でも整備が進められており、先に整備された狼煙地区のみんなの家では、定期的に食事会をするなど、狼煙地区のコミュニティを維持再生していく拠点になっている。

参加者：

鍛冶町の公営住宅は、何戸想定か。

珠洲市：

鍛冶町で建設する戸数は30戸想定である。

参加者：

自力再建で新築する際に、1坪150万円、仮に20坪になると、単純に3,000万円程度になると聞いているが、実態が分かれば教えて欲しい。

市長：

昨年の10月から市独自で新築に対し上乗せする補助制度を設けたところである。建築費用の1割補助、上限200万円である。18歳以下のお子さんがある子育て世帯については、建築費用の15%補助、上限300万円である。現在、200件ほど新築補助金の申請が出ており、坪単価80万円台もあるが、ハウスメーカーによっては、坪単価120万、130万くらいである。1件だけ坪単価200万円の申請もあったようだ。建坪が小さくても、台所、キッチン、お風呂、お手洗い等の水回りにお金が掛かっている事が考えられる。ハウスメーカーによってもばらつきがある。発注した時期が影響している可能性もある。

また、解体して更地に新築となると、被災者生活再建支援金の基礎支援金、福祉推進給付金等、補助金を足すと大体1,000万くらいになる。ただ、ハウスメーカーによっては、今注文を受けても着工まで時間が掛かることや、一旦受付を閉じているケースもみられる。

参加者：

公営住宅は、一戸建てを考えているのか。

市長：

飯田地区への意向人数と、取得できそうな土地の広さの兼ね合いから考えると、復興公営住宅は集合住宅もしくは長屋タイプという形で進めることになる。

参加者：

珠洲市が住宅を買い取って、リフォームして公営住宅にすることは無いのか。

珠洲市：

公営住宅は公営住宅法に基づいて整備するものであるため、一般住宅を買い取って、修繕して活用することは無い。

市長：

民間であれば、住宅を買い取ってリフォームして貸すという動きはある。その際には、空き家に関する補助金も出る。

参加者：

（図面上の）青線の令和9年度着手のルートについて聞きたい。狹隘道路は拡幅という方針だが、どの程度になるか。積極的に拡幅する計画はあるのか。自宅を再建する際に、土地が確保できるかによっては再建が難しくなる。

市長：

新築の際には、道路の中心線から2mは確保しなければならない基準がある。そのうえで、土地がどのくらい残るかということになる。

珠洲市：

飯田地区において市が積極的に拡幅する路線は位置づけていない。新築においてはセットバックが必要となるため、建て替えが進めば4mの幅員が確保される。ただし、一斉に建築が始まるわけではないため、緩やかに幅員が確保されていくものであると考える。幅員が揃っていけば、市が舗装整備等を行うことを検討する。

市長：

道路との高低差についても、排水を考慮しながら進めていく。

参加者：

更地が増えているが、今後家を建て直さない意向等は把握しているのか。再建が無ければ市が買収するなどの計画はあるのか。

市長：

具体的な事業が生じれば、買収に向けて動いていく。また、飯田分団の待機所が決まっていないため、まずはその用地の確保を考えていきたい。意向については、現時点では、第3回目までの調査で再建意向を把握している。

珠洲市：

公費解体後どうするかに関しては、所有者にアンケート行っており、ある程度は、把握している。

市長：

土地の固定資産税について、建物がある場合は1/6の軽減措置が設定されているが、更地にすると軽減措置がなくなり税金が6倍になる。熊本地震においては、発災から9年経つが軽減措置が続いているようである。国に対しては、引き続き軽減措置の要望を出しているが結論は出ていない。本来のルールでは年明けから軽減措置解除となるが、先に取り上げたハウスメーカーの着工遅れ等の課題もあるため、国には強く要望を出す。

これだけ更地が広がってくると、景観の問題も出てきている。どんどん雑草も伸びている。本来であれば土地の所有者が刈り取らないといけませんが、対応策を行政としても考えている。今のところは例えば区ごとに更地になったところを何件あるか、戸数ではなく何箇所あるかを出していただいて、年2回箇所数に応じて、更地1箇所あたり1回2千円で、環境整備としての補助金・助成金を町内会にお渡しをする対策を検討しているが、皆様どう思われるか。来年度くらいからスタートしたい。各区の区長さんで検討をお願いしたい。

参加者：

鍛冶町の復興公営住宅は30戸であるが、山口陶器店の横に工事関係者用の仮設住宅が2棟、地主の家もあり、モデル住宅も基礎ができて建てようとしているが、このスペースに30件建てられるのか。

珠洲市：

建設予定地について、戸数の確保は問題無い。地権者とも交渉をしている。他にも1軒の再建意向があることは把握し、対応を行っている。

参加者：

栄町の復興公営住宅は、遠いのではないかと。まちに近いところで建設したほうがよいと思う。

市長：

健康増進センターのところが少し遠いのは理解している。そのため、鍛冶町で復興公営住宅を建てることにした経緯がある。鍛冶町で足りればいいが、継続して意向を確認し、整合を取るようにする。

市長：

泉谷区長会長の方でまちづくり協議会の意見も伺っている。飯田港の復興について、アートや遊具などの計画が挙がっていたが、他に追加はあるか。

泉谷区長会長：

現在取りまとめを行っており、次回の意見交換会の時期に発表したい。皆さんに確認を取りたいと思うので、また改めてお話をします。

また、飯田小学校に集まって会議をしているが、小学校の坂を上がった一番上の外灯の電球が切れている。坂が非常に暗くて危険なため、教育委員会に相談しているが、今日もついていなかったため、対応をお願いしたい。

珠洲市：

早急に対応する。

参加者：

国道の消雪装置について説明があったが、飯田地区の中の消雪装置はどうなるのか。

珠洲市：

この冬で稼働できないのは、吾妻橋については、パイプが破損しているため稼働できない。国道と市道が交差する、山本寝具店から珠洲電気工事までの市道も稼働できない。飯田保育所の周辺道路についても井戸の問題があり稼働できない。今挙げた路線については、機械除雪で対応する。

散水できる路線は、春日通り、南町、今町、有限会社魚新からクリーニング店、すずなり西交差点までの市道は散水可能である。

参加者：

鍛冶町の復興公営住宅予定地の裏側に1軒ある住宅付近の道路は、除雪していただけるのか。

珠洲市：

1軒でも除雪を行う。

参加者：

消雪装置について、大町、鍛冶町、南町は出るのか。

珠洲市：

今挙げられた路線は消雪可能である。

参加者：

水道メーターの所に2mくらいの赤白のポールが立っているが、あれは何か。

珠洲市：

検針のためではないかと思われる。のちほど確認する。(注1)

参加者：

消雪装置について、県道を跨いでを設置してあるところに大型トラックが通ると、大きな音が鳴る。直角方向での設置は避けるなど、消雪装置の設置の仕方を工夫してはどうか。

珠洲市：

詳細な設置基準はないと思うが、道路全体に行き渡るように設置するのが基本である。直角交差の箇所は、直角に設置するのが基本であると考え。

市長：

復旧、復興について、色々な思いがあると思う。現在、計画案を示しているが、これで飯田地区の皆様の再建を充足できるのかといったところはある、現在4回目の意向調査で、できるだけ意向を集めて、計画に反映し、年内にとりまとめを報告するようにしたい。まだ2年数ヶ月程度かかることとなり、その間、応急仮設に住み続ける必要があるため、なんとか前倒しで進められるようにも努めていきたい。

また、飯田町復興まちづくり協議会で案を取りまとめているとのことで、以前も要望をいただいている、飯田地区の復興に向けた対応も、できる限り進めていきたい。飯田港をどう活用していくかも重要になる。埋め立ての期間は当然かかるが、その上に何を整備するかという案を出していただきながら、考えていきたい。

飯田地区が魅力あるまちになるよう、皆様のご意見を反映しながら取り組んでいくので、今後とも色々な案を出していただき、議論を重ねながら対応していく。

以上

注1：除雪路線に隣接する更地の宅地にある水道メーターなどの破損を防ぐため、ポールを目印として、除雪業者が設置したもの。